

新潟市スポーツ推進計画

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画

〈平成29年度実施事業〉

進行管理調書（抜粋版）

— 目次 —

- | | | |
|---|-------------------|---------|
| 1 | 健康スポーツ・・・P1～2 | スポーツ振興課 |
| 2 | 競技スポーツ・・・P5～6 | スポーツ振興課 |
| 3 | みるスポーツ・・・P7～8 | スポーツ振興課 |
| 4 | 支えるスポーツ・・・P9～10 | スポーツ振興課 |
| 5 | スポーツ情報ネットワーク | |
| | スポーツ医科学支援体制・・・P13 | スポーツ振興課 |

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成29年度実施事業 進行管理調書

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている
2・・・概ね取り組まれている
1・・・より積極的な取り組みをお願いする
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)			
			H29数値目標 予算額(単位:千円)	H29実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
1	新潟シティマラソン	10月9日(月・祝)、デンカビッグスワンスタジアム前発～市陸上競技場着の新たなコースで制限時間も延長(フルマラソン5時間→7時間)して開催。 征谷小路や萬代橋などの中心市街地や新潟ならではの水辺を望む日本陸連公認コースにマラソン(42.195km)とファンラン(10.6km)の2種目を設定。マラソン9,608人(定員9,000人)、ファンラン3,349人(定員3,000人)のエントリーを得た。	エントリー者数 12,000人	エントリー者数 12,957人 市内:7,089人 県内:2,851人 県外:3,017人 (うち国外:87人)	A	新コース初開催ということもあり、例年以上に広報活動を行ったことや、制限時間延長により参加しやすい大会になったことなどにより、目標を上回った。	1	平成30年度大会は、前回ランナーからの評判が芳しくなかったみなどトンネルのコースを変更、往復路のトンネルを分けるほか、スタート直後の混雑緩和を図るためウエーブスタートを導入するなどの改善を行う。	2	今後も意見を取り入れながら、改善を進めてほしい
2	少年少女スポーツ大会	児童の健全育成や親睦、コミュニケーション能力の育成を図ることを目的として、昭和40年より開催している。	エントリーチーム数 野球:75チーム サッカー:81チーム ミニバス:144チーム バレー:27チーム	エントリー数 野球:72チーム サッカー:86チーム ミニバス:142チーム バレー:30チーム	B	参加チームについては、ほぼ例年の実績数であり、夏に行う大会として定着し、次代を担う青少年の心身の健全育成を図っている大会となっている。	1	少子化などの影響と思われるがその年により参加チーム数に変動はあるものの、実行委員会と連携を図りながら、親しむ・楽しめる大会となるよう実施していく。	2	概ね順調に取り組まれている
3	早起き野球大会	早起き野球を通して、市民が積極的にスポーツに親しみ、スポーツ振興と相互の親睦を図ることにより豊かな社会生活に寄与することを目的に開催した。 【第52回新潟市早起き野球大会】 期日:平成29年5月21日～7月30日 会場:ハードオフエコスタジアム新潟 外10会場 参加チーム数:156チーム	エントリーチーム数 160チーム	エントリーチーム数 156チーム	C	エントリーチーム数については本市は日本一であるが、その他トップ4の他市も含めて年々減少傾向にある。	2	参加チームの増加につながるようアンケートを実施し、競技方法の変更するなど大会運営の改善に反映させる。	2	参加チーム数が増えない中。満足度向上につなげていっていただきたい
4	新潟シティライド	自転車を有効に活用して市民の健康の維持・増進とサイクリングスポーツの普及・促進を図ることを目的として、市内をサイクリングしながらエイドステーションで新潟ならではの食を堪能できるイベントを開催した。 平成29年6月4日(日) ロングライド(120km)・ミドルライド(70km)・ショートライド(33km)	エントリー者数 ロングライド:550人 ミドルライド:50人 ショートライド:50人	エントリー者数 ロングライド:592人 ミドルライド:63人 ショートライド:55人	A	ロングライド、ショートライド、新設したミドルライドともに申込受付開始から数十分で定員に達し、募集を締め切ることとなり、人気の高さを伺うことができた。	1	定員数を増やして欲しいという要望に応え、より多くの方楽しんでいただける魅力のあるイベントにする。	3	ミドルライド追加を評価、事故等が発生しないよう今後も気を付けながら実施していただきたい
5	新潟ヒルクライム	岩室地域の魅力を全国に発信し、交流人口の拡大を図るとともに、サイクリングスポーツの振興を目的として、岩室温泉をスタートし弥彦山スカイラインを麓から頂上まで自転車で駆け上がりタイムを競う競技会を開催した。 平成29年9月3日(日) 距離7.6km	エントリー者数 500人	エントリー者数 486人	C	競技性が強いイベントではあるが、カテゴリー(年齢区分等)を多く設定することで、老若男女が楽しめる競技会として多くの参加があった。	1	西蒲区役所や岩室温泉観光協会との連携を強め、岩室地域の魅力を発信できる仕掛けづくりに努める。	3	順調に取り組まれているが、今後改善していくべき部分もある

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成29年度実施事業 進行管理調書

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
 7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている
 2・・・概ね取り組まれている
 1・・・より積極的な取り組みをお願いする
 0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)					新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)		
			H29数値目標	H29実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
6	水上スポーツ体験学習推進事業	新潟市アイスアリーナで小学生に氷上スポーツを体験させることで氷上スポーツ愛好者の底辺拡大を図るため、市内小学校の校外活動時のバス送迎に係る経費と施設利用料金を助成した。	実施校数 70校	実施校数 54校(61件)	C	28年度に引き続き、周知時期・事業開始時期を早め実施の機会の拡大に努めた結果、数値目標は下回ったが、前年度より増加した。	1	各校の年間計画の策定に配慮し、周知・事業の開始期を29年度同様に早め、引き続き実施の機会を増やしていく。	1	(しっかり取り組まれているが、より積極的に、と良い意味での評価1)学校の事業として検討することはできないか、クラブチームなどを作って氷上競技人口を増やしていくといった取り組みもできないか、検討していただきたい
			3,600	2,041						
7	市民綱引き大会 (スポーツ協会)	冬期間のスポーツとして、綱引きを通じて地域スポーツの振興と市民相互の親睦を図るとともに冬場の健康維持・増進を目的に気軽に参加できる種目として開催した。 一般の部(混成の部) 小学生の部(高学年の部、低学年の部)	エントリーチーム数 一般の部:16チーム 小学生の部:50チーム	エントリーチーム数 一般の部:15チーム 小学生の部:48チーム	C	毎年、参加をする常連のチームが多く、市民の間で冬場のスポーツイベントとして定着しており、多くの参加者を保っている。大会開催前より、各地域で練習に取り組み活動を行うことから、冬場の健康維持・増進に寄与している。	1	健康づくりや地域間の交流の場として、当初の目的は達成している。 実行委員会や地域団体と協力しながら参加者の拡大に努める。	1	(しっかり取り組まれているが、より積極的に、と良い意味での評価1)冬場の身体を動かす機会を積極的に提供できているが、地域差などがあるため、全市的に広げていっていただきたい
			320	220						
8	健康・体力づくりのつどい (スポーツ協会)	家族そろって楽しめる健康・体力づくりのイベントを開催し、運動の習慣化を目指し開催した。	参加者数 2,000人	参加者数 2,550人	A	かけっこ教室や逆上がり教室、体力測定など市民ニーズに対応した"楽しく・気軽に"参加できるイベントを開催することができた。また、スポーツ少年団区對抗たすきりレマソンでは、区や種目を越えた交流の場として、少年団活動の普及・振興にも繋がっている。また、自主財源確保のため企業協賛や助成金を活用して開催している。	1	市民参加型のイベントとして、より一層魅力あるものにするため、スポーツ科学等を学ぶ大学生・専門学生などボランティアの協力を得たり、職員の特技・特性を生かした内容を検討するなど事業の充実を図る。	2	参加者数は多く評価できるが、様々な種目が新たに出てきていることから、新種目などの追加など、対応を検討していただきたい
			1,300	1,158						
9	市民サッカー大会 (スポーツ協会)	生涯スポーツの普及と市民相互の親睦を図り、健康の維持増進を目的に、サッカー大会を開催している。	エントリーチーム数 86チーム 参加者数:1,200人	エントリーチーム数 96チーム 参加者数1,230人	A	近年は参加者・チーム数は横ばいであるが市民が参加しやすいフレンドリーな大会となっている。市民の健康づくりとスポーツの振興に貢献していることから、当初の目的はほぼ達成している。	2	市民参加型のイベントとして、より魅力あるものにするため、クラス分けなどを再検討し、サッカー経験者も未経験者もより参加しやすい大会を目指す。	3	女性の部や、実力別にクラス分けしていることで、レベル別に優勝を目標にすることができ、評価できる
			760	760						
10	市民総合体育祭 (スポーツ協会)	春季と秋季の年2回、体育協会加盟団体がスポーツの普及振興と競技力向上を目的に開催をしている。	開催種目数 春季:20種目 秋季:30種目	開催種目数 春季:25種目 秋季:34種目	A	市民総合体育祭を主催する加盟競技団体と連携し、市民の健康増進と競技力の向上が図れた。	2	競技の普及・振興ならびに競技力の向上に寄与することから継続して実施する。また、未実施の加盟競技団体へ大会開催の声掛けを行う。	1	(しっかり取り組まれているが、より積極的に、と良い意味での評価1)現在も種目数は多いが、昨今増えているニュースポーツの導入や、競技スポーツだけでなく、(ダンスなどの)発表の場など様々な形でスポーツに触れることができる機会となるよう、取り組みを期待したい
			1,310	1,252						
11	新潟県障がい者スポーツ大会開催事業	新潟県とともに全国障害者スポーツ大会の派遣選考大会である「新潟県障害者スポーツ大会」を開催した。	参加者数 個人競技:6種目・750人 団体競技:5種目・130人	参加者数 個人競技:6種目・779人 団体競技:5種目・282人	A	障がいのある人が参加できるスポーツ大会が少ない中で、日頃のスポーツトレーニングの成果を競い合う良い機会となっている。	2	参加者が年々減少傾向にあるため、大会の周知を行いながら、今後も引き続き大会を開催する。	3	順調に取り組まれている
			768	768						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成29年度実施事業 進行管理調書

基本方針	競技スポーツ: 競技力の向上を推進します。
基本目標	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
 7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている
 2・・・概ね取り組まれている
 1・・・より積極的な取り組みをお願いする
 0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)					新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)		
			H29数値目標 予算額(単位:千円)	H29実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
1	ジュニア強化事業 (スポーツ協会)	新潟市から世界へ羽ばたく選手を育成するため、加盟競技団体と連携し、ジュニア世代(小・中・高校生)を対象とした強化事業を実施した。 ◆ジュニア強化事業 スポーツの振興と競技水準向上を目的に、加盟団体のうちジュニア選手の強化事業を実施している27競技団体に対して、係る経費の一部を助成して支援を行った。 ◆にいがたスーパージュニア育成事業(以下、SJ育成事業) ボクシング、柔道の2種目について、新潟市から日の丸をつけて活躍する選手の輩出を目指し、オリンピック等の国際大会で活躍した選手やコーチを招へいて通年(年10回程度)による選手強化を行った。 ◆氷上スポーツ育成事業 国内外で活躍する選手や講師を招聘し、フィギュアスケート、アイスホッケー、カーリングの教室・体験会を行った。	ジュニア強化事業実施数 27団体 にいがたスーパージュニア育成事業数 2事業 氷上スポーツ育成事業実施数 3団体	ジュニア強化事業実施数 27団体 にいがたスーパージュニア育成事業数 2事業 氷上スポーツ育成事業実施数 3団体	B	ジュニア強化事業は、計画どおり27団体について実施しており普及・振興と競技力の向上に寄与している。 SJ育成事業は2年目を迎え、ボクシングで高校3冠を達成する選手が出るなど着実に成果が現れている。 カーリング、アイスホッケー、フィギュアの氷上スポーツ育成事業においては、国内外で活躍する選手や講師を招へいした。	1	ジュニア強化事業について、来年はヒアリング(隔年実施)を行い、活動状況を把握した上で強化費の配分を行う。 SJ育成事業については、2年目の成果を検証しながら、種目の追加を検討する。 氷上スポーツ育成事業は、ジュニア層の競技力向上を目的に競技団体と連携を図り実施する。	3	順当に取り組まれている
2	スポーツ指導者講習会 (スポーツ協会)	本市の競技力の向上を図るため、ジュニア強化に携わる指導者や関係者など市民を対象とした研修会を開催した。	講習会開催数 1回 100人	講習会開催数 1回 62人	C	前年度研修会のアンケートより、ニーズの高かったコーチング関係の研修会を実施した。前年の栄養学に比べて保護者の参加が少なく、参加者数は下回る形となったが、アンケートによる満足度評価は非常に高かった。	1	年に複数回実施してほしいという要望があるため、予算の範囲内で検討を進める。	2	複数回開催の検討を含め、今後、より工夫しながら取り組んでいただきたい
3	国際大会等出場者激励金	本市を代表して国体及び海外での国際大会に出場する選手、監督等に激励金を支給し、また、全国大会に出場する小中高生に対しても激励金を支給した。	国体出場者 180人 国際大会出場者 6人 小・中・高校生全国大会出場者 520人	国体出場者(冬季含む) 201人 国際大会出場者 19人 小・中・高校生全国大会出場者(甲子園含む) 505人	B	該当の大会等に出場した総数では、目標を達成した。	3	本事業を継続して運用していけるよう、H29年度に制度内容(激励金支給金額)の見直しを行い、H30年4月から制度内容(一部激励金の減額)を変更。	3	予算が限られている中で順調に取り組まれている

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成29年度実施事業 進行管理調書

基本方針	競技スポーツ: 競技力の向上を推進します。
基本目標	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価					新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H29数値目標 予算額(単位:千円)	H29実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
4	全国障がい者スポーツ大会選手派遣事業	平成29年10月に開催された第17回全国障害者スポーツ大会「愛顔つなぐえひめ大会」へ新潟市代表として選手を派遣した。	個人競技 18人	個人競技 18人	B	選考会となる県大会出場選手が減少傾向にある中ではあるが、市選手団として派遣することができた。	2	派遣選手が固定化してきたこともあり、より多くの選手に出場機会を提供するため、連続出場制限のルールを定めて実施していく。	3	障がい者の社会参加の機会にもなっており、順調に取り組まれている
			12,182	12,182						
5	全国障がい者スポーツ大会選手強化事業	全国障害者スポーツ大会に派遣する選手を対象とした練習会を開催するとともに、団体競技において強化指定チームへの支援を行った。また、新たな選手の育成に向け各種スポーツ教室を開催した。	練習会・合宿の開催	練習会・合宿の開催	B	練習会において専門的な指導を行うことで競技力向上が図られた。また、強化指定チームに強化費を助成することで大会遠征や継続的な活動が行われている。	2	個人競技では全国大会で大会新記録を達成した選手が出てくるなど選手強化の成果が表れており、引き続き取り組みを行っていく。	3	順調に取り組まれている
			3,065	3,065						
6	障がい者スポーツ全国大会参加激励金支給	国や公共団体等が主催する障がい者全国大会等の参加者に激励金を支給。	個人 36人 団体 3団体	個人 26人 団体 4団体	B	個人の人数は目標を下回ったが、団体数は目標を上回った。	2	全国大会へ参加する者の負担を軽減し、積極的な社会参加を促している。 引き続き激励金の支給し、支援を行っていく。	3	順調に取り組まれている
			309	460						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成29年度実施事業 進行管理調書

基本方針	みるスポーツ:みる機会、交流機会の拡大を図ります。
基本目標	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに、地元プロスポーツチームとの連携を推進し、トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し、ふれあいや地域の交流を促進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
 7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている
 2・・・概ね取り組まれている
 1・・・より積極的な取り組みをお願いする
 0・・・早期に取り組みが必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)					新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)		
			H29数値目標	H29実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
1	ドキドキ・ワクワクスポーツふれあい促進事業	プロスポーツチームを通じて、夢と感動を共有し、青少年の心身の健全育成とスポーツ文化の醸成を図るため開催した。 1. サッカー教室開催 1回目 期日:平成29年7月15日 会場:新潟県スポーツ公園 2回目 期日:平成29年8月27日 会場:新潟市陸上競技場 2. サッカー指導者派遣 期日:平成29年5月1日～12月31日 52回 会場:デンカビッグスワンスタジアムほか 3. サッカー観戦招待 期日:平成29年4月3日～平成30年3月31日まで12試合 会場:デンカビッグスワンスタジアム 4. 野球観戦招待 期日:平成29年6月1日～11月30日まで7試合 会場:HARDOFF ECOスタジアム新潟 5. 男子・女子バスケットボール観戦招待 期日:平成29年10月1日～平成30年3月16日まで10試合 会場:新潟市東総合スポーツセンターほか	サッカー教室参加者数 300人 サッカー指導者派遣数 182人 サッカー観戦招待者数 20,000人 野球観戦招待者数 85組 バスケットボール観戦招待者数 70組	サッカー教室参加者数 130人 サッカー指導者派遣数 140人 サッカー観戦招待者数 27,480人 野球観戦招待者数 101組 バスケットボール観戦招待者数 110組	B	サッカー教室参加者数とサッカー指導者派遣数が目標より下回ったため、原因を分析し、改善が必要である。	3	サッカー教室参加者数を増やすために、事業内容を見直し、参加しやすい開催日の設定や周知方法の改善を行う。	3	順調に取り組まれている
		18,100	17,868							
2	プロ野球招致推進事業	官民が一体となった「プロ野球新潟招致委員会」により、プロ野球公式戦を招致し、観戦招待事業や、横浜DeNAベイスターズのラミレス監督のトークショーを開催した。 平成29年7月4日(火) 横浜DeNAベイスターズvs阪神タイガース	プロ野球公式戦開催数「横浜-阪神」1試合	プロ野球公式戦開催数「横浜-阪神」1試合 ※雨天中止	C	ハードオフエコスタジアム新潟のオープン以来、一定数のプロ野球公式戦を招致・開催しており、新潟でプロ野球を楽しむ環境が整っている。開催機運醸成のため、トークショーを実施した。	2	プロ野球公式戦の開催実績を重ねるとともに、観戦招待事業をはじめとする興行支援を行い、機運の醸成を図りながら将来的な球団誘致も視野に入れるとともに、交流人口の拡大、地域活性化につなげていく。	2	試合は雨天中止となったが、トークショーを実施した。観戦招待なども継続して取り組んでいきたい
		933	266							
3	大会、合宿等誘致の推進	国際・全国規模の大会や、2018年平昌冬季、2020年東京オリンピック・パラリンピックの事前・直前合宿の誘致につなげるため、ナショナルチームの合宿を誘致した。 ショートトラックスピードスケート 日本 H29.5.7～6.10 車いすカーリング 日本 H29.12.1～3 フィギュアスケート ロシア H30.1.28～2.18	国際大会数 2 全国大会数 7 ナショナルチーム合宿数 2	国際大会数 1 全国大会数 2 ナショナルチーム合宿数 3	C	平昌冬季五輪のロシア・フィギュアスケートの合宿開催をはじめ、新潟市の知名度の向上、スポーツを通じた交流の推進や地域経済の活性化を図ることができた。	2	平昌冬季五輪のロシア・フィギュアスケートの合宿の実績を基に、市内での合宿実績を積み上げることで、今後のオリンピック・パラリンピック直前合宿や国際・全国大会の誘致・開催につなげる。	3	競技団体等と連携して順調に取り組まれている
		15,000	11,979							

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成29年度実施事業 進行管理調書

基本方針	みるスポーツ:みる機会、交流機会の拡大を図ります。
基本目標	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに、地元プロスポーツチームとの連携を推進し、トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し、ふれあいや地域の交流を促進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
 7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている
 2・・・概ね取り組まれている
 1・・・より積極的な取り組みをお願いする
 0・・・早期に取り組み必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)			
			H29数値目標 予算額(単位:千円)	H29実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
4	氷上スポーツイベント 開催事業	新潟市アイスアリーナにおいて、村上佳菜子さんや今井遥選手、県内選手によるフィギュアスケート演技発表会を行い、トップアスリートの演技に触れる機会を提供し、フィギュアスケート、アイスホッケー、カーリングの教室・体験会を行い、氷上スポーツを行うきっかけとなるイベントを開催した。 平成30年3月3日(土) 新潟アサヒアレックスアイスアリーナオープン4周年イベント	イベント参加者数 580人	イベント参加者数 753人	A	周年記念イベントとして、氷上スポーツの普及を促進するイベントを開催できた。 目標を上回る数の参加者を確保できた。	2	引き続き、市民が氷上スポーツを行うきっかけとなるイベントを開催する。	3	一人でも多くの方に施設に足を運んで行ってもらえるよう、今後も取り組んでいきたい
5	オリンピックムーブメント 事業	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて市内の機運醸成を図るため、オリンピックムーブメントの普及・啓発を目的としたイベントを開催した。 実施主体 新潟市文化・スポーツ委員会 オリンピック教室 平成29年10月14日(金)(新潟柳都中学校) オリンピックデーラン 平成29年10月15日(土)(デンカビッグスワン)	参加者数 1,000人	参加者数 1,078人	A	オリンピック教室については、オリンピックによる自身の経験に基づいたオリンピック精神を学ぶ機会を提供することができた。 オリンピックデーランについては、オリンピックと市民の交流の機会を提供することができた。	2	オリンピックムーブメントの普及・啓発はもとより、オリンピックに向けた市内の機運醸成から今後の外国からの観光客の誘致や国際大会等の誘致に向けた取り組みにつなげる。	3	順調に取り組まれている
6	国際ユースサッカー in新潟の開催	国際サッカーイベントを通じたスポーツ交流により、各国青少年の相互理解及び国際友好親善を深めるとともに、新潟を国内外に大きくアピールした。 平成29年7月15日(土)～17日(月) デンカビッグスワンスタジアム 他	観戦者数 4,350人(3日間)	観戦者数 4,350人(3日間)	B	出場選手からは多くのA代表選手が選出されており、2020東京オリンピックに向けての注目度が高まっている。	2	ユースのトップチームによるレベルの高いゲームを本市を含む県内各地で開催することにより、サッカー機運の醸成及び地区サッカー協会の運営能力の向上に大きな役割を果たしている。 ※昭和63年からの全国ユースサッカー大会を前身とし、平成9年より「国際ユースサッカーin新潟」として毎年開催し、平成29年度で21回を迎えた。	3	協会等との関係を含め、順調に取り組まれている。 新潟が少年サッカーの聖地となるよう、PR、広報活動をより積極的に実施していただきたい
7	日韓交流少年サッカー の開催	日韓の小学生世代における国際交流と競技力の向上を目的に開催し、韓国蔚山市サッカー協会と新潟市サッカー協会の相互交流が図られている。 平成29年7月29日(土)～8月1日(火) 新潟市	交流回数 1回	交流回数 1回	B	29年度は韓国・ウルサン市の選手が新潟市を訪問しサッカー交流を行った。	2	今後も相互交流を続けることを両協会が確認した。 ※平成12年から始め、平成29年度で15回を迎えた。	3	協会等との関係を含め、順調に取り組まれている。 新潟が少年サッカーの聖地となるよう、PR、広報活動をより積極的に実施していただきたい

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成29年度実施事業 進行管理調書

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
 7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている
 2・・・概ね取り組まれている
 1・・・より積極的な取り組みをお願いする
 0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)					新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)		
			H29数値目標 予算額(単位:千円)	H29実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
1	スポーツ施設の管理運営・整備	スポーツの普及振興を図り、市民の健全な発達と明るく豊かな市民生活の形成に寄与するため、本市が設置するスポーツ施設の管理運営を行う。また、スポーツ施設の運営が円滑に行われるよう必要な補修工事を行う。 【H29工事実績】 ・新潟市体育館床改修工事 ・白根総合公園テニスコート浄化槽更新工事 ・新潟市陸上競技場補助競技場照明塔撤去工事 ほか	施設利用者数 4,000,000人	施設利用者数 約4,160,000人	A	昨年度と比べて利用者が微増した区もあれば微減した区もあるが、全体としては目標を達成した。	2	市民の健全な発達と明るく豊かな市民生活のため、スポーツ施設の管理運営及び必要な補修工事を行う。	3	利用者数が順調に増えており、市民などから施設を活用していただけている
2	スポーツ施設の整備・改修方針の検討	昭和39年開催の新潟国体に合わせて整備された施設など老朽化が進んでいる施設もあり、大規模な改修や更新、施設の集約化を計画的に行う必要があることから、スポーツ施設の整備・改修方針の検討を行う。	集約化に向けての情報収集	集約化に向けての情報収集	B	整備・改修方針の検討を行った。	2	今後のスポーツ施設の改修について、基幹施設のほか緊急性を有する施設などを考慮し、改修計画策定の取り組みを行う。	2	スピード感を持って、より見えるような形で実施していただきたい
3	スポーツと音楽功労者表彰事業	スポーツと音楽芸能の振興及び発展を目的に、功績が顕著な個人または団体を表彰している。 表彰数:スポーツ関係463件(H29.3.31現在)	実施	実施 (スポーツ関係10名)	B	市体育協会を通じ競技団体などからの推薦に基づき、スポーツ・音楽功労者選考会議に諮り、適正に表彰を行なった。	2	今後も、本市のスポーツと音楽芸能の振興及び発展に尽くした功労者を表彰し、スポーツを支える環境づくりを進める。	2	概ね順調に取り組まれている

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成29年度実施事業 進行管理調査

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている
2・・・概ね取り組まれている
1・・・より積極的な取り組みをお願いする
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)			
			H29数値目標 予算額(単位:千円)	H29実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
4	スポーツ推進委員の活動推進	地域スポーツの推進役となるスポーツ推進委員の資質向上を図ることを目的に研修会を開催した。	研修会開催数 2回	研修会開催 2回	B	自主研修会(兼県大会)、新年研修会と年2回の研修会を開催することができた。	2	スポーツに対するニーズの多様化により、推進委員には求められる知識や技能の向上が不可欠である。資質向上に繋がるよう一層の支援に努める。	1	(しっかり取り組まれているが、より積極的に、と良い意味での評価1) 委員の年齢層が高めなため、若い人にも積極的に入ってもらえるような取り組みを進めていっていただきたい
5	スポーツ振興会の育成・支援	スポーツ振興会の中心的役割を担うマネージャーの育成と資質向上のため研修会を開催した。	研修会開催数 1回	研修会開催 1回	B	スポーツ活動における現状と将来像について学び、グループワークを通して環境充実に向けた課題とその解決方法を探るなど有意義な研修会になった。	2	今後も充実した研修会が開催できるよう研修の内容を検討し、実施していきたい。	1	(しっかり取り組まれているが、より積極的に、と良い意味での評価1) 研修会等の内容は良かったという意見を参加者からいただけており評価できるが、研修内容を地域や振興会全体へ広げる取り組みを実施していただきたい
6	スポ柳都にいがた指導員養成研修会	ジュニア層の指導者の養成・資質向上のため、研修会を開催した。本研修会修了者を青少年スポーツ大会の指導者資格の一つとしている。	参加者数 100人	参加者数 60人	C	例年3月に開催していたが、6月に変更したことによる認知不足、大会などのシーズンインにより参加者数が目標に届かなかったが、グループワークを取り入れるなど、参加者からは好評であった。	2	適切な実施時期の検討や、実績のある講師を迎えるなど、魅力があり資質向上のための一助となる研修会となるよう内容を検討していく。	1	参加者数が目標を下回っているため、指導者育成も含めて今後より広げていっていただきたい
7	スポーツボランティアの育成	10月9日(月・祝)に開催した新潟シティマラソン2017において、救護や給水、手荷物返却などの業務に従事するボランティアに300人を超える参加があった。	シティマラソン学生・企業ボランティア数 100人	シティマラソン学生・企業ボランティア数 303人	A	専門学校や高校、民間企業などの働きかけを行い、学生(252人)及び企業(51人)からの参加があった。	1	今後も大学や専門学校、高等学校、中学校、企業などへ協力を依頼していくとともに、公募ボランティアについても引き続き募集していく。	3	順調に取り組まれている

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成29年度実施事業 進行管理調書

基本方針	スポーツ情報ネットワーク・スポーツ医科学支援体制 :スポーツ情報ネットワークとスポーツ医科学支援体制を充実します。
基本目標	スポーツ情報の発信に努めるとともに医科学支援体制の充実を図ります。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている
2・・・概ね取り組まれている
1・・・より積極的な取り組みをお願いする
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)					新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)		
			H29数値目標 予算額(単位:千円)	H29実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
1	目指せオリンピック! 医科学サポート事業 (スポーツ協会)	にいがたスーパージュニア育成事業の実施にあわせてスポーツトレーナー等を派遣し、傷害予防やコンディショニング調整を目的に競技力の向上を図った。	スポーツトレーナー派遣競技団体数 2団体(柔道・ボクシング)	スポーツトレーナー派遣競技団体数 2団体	B	にいがたスーパージュニア育成事業を実施する2団体を対象として当初の計画通りに実施し、傷害予防・コンディショニング調整等により競技力向上に寄与した。	1	オリンピックや国際大会等に出場・活躍する選手の輩出に向けて強化指定選手を医科学面で更にサポートする。 医科学センターの利用については、実施種目の競技特性などを踏まえた上でどのような活用ができるか検討を行う。	3	順調に取り組まれている
2	公共予約システムの運用	市民がいつでも気軽にスポーツ施設を利用できるよう、インターネットによる施設予約システムの充実・運用を図る。 ・スマートフォンサイトの開設(H28.3.1)	システム利用件数 30,500件	システム利用件数 30,590件	B	オンライン予約者数は前年より増えている。大きな伸びではないが、着実に増えている。	2	市民の利便性のため、施設予約システムの運用を継続し、周知に努める。	3	インターネットだけでなく、窓口での対応も含め、順調に利用されている
3	スポーツ振興課 ホームページ	スポーツに関する施設、大会・イベント、団体などの情報について、市民への情報提供を行う。	アクセス数 1,000,000件	アクセス数 約1,144,000件	A	大会・イベントなどの情報を随時更新し、市民への情報提供を積極的に行った。	2	ホームページを活用した市民への情報提供を継続する。また、総合体育館など各区基幹施設へのアクセスが多いことから、施設情報について引き続き、見直しや更新を行う。	3	順調に取り組まれている